

熊本商工会議所・第67回 経営動向調査

平成25年3月期 結果報告書

業況DI ▲15.2（前期比+3.4）で2期連続改善

～来期の見通しは12.1と調査開始以来最高水準を記録～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲15.2で、前回（平成24年12月期）調査の▲18.6に比べ3.4ポイント改善した。

今回の調査で業況を全体的に見ると、全ての業種で製造原価・仕入（材料等）単価が悪化し、売上高も建設業以外で悪化した。採算も建設業並びにサービス業以外で悪化した。小売業を除く全ての業種で販売（受注）・客単価が改善したことで、業況DIは▲15.2と2期連続で改善した。

建設業（土木・建築）は2期連続、卸売業、飲食業、サービス業では3期ぶりに改善。建設業（職別・設備）、小売業は改善・悪化を繰り返しており、製造業は2期連続で悪化した。

調査先からは、好転の要因としてアベノミクスにおける景気浮揚感や、消費税増税前の駆け込み需要、季節的要因による受注工事増加などが挙げられ、悪化の要因として円安等による仕入（材料等）価格の高騰や価格上昇分の価格転嫁難、大型店との価格競争などが聞かれた。

来期（平成25年4～6月）の業況見通しについては、全業種の業況DI値は12.1と2期ぶりに改善。平成8年9月の調査開始以来最高水準を記録した。サービス業はプラス幅は減少しているものの5期連続プラス水準で推移している。製造業では3期連続プラス2桁台で推移し、全体と同じく調査開始以来最高水準を記録した。

- ・ 調査対象期間 平成25年1月～3月（平成24年度 第4四半期）
- ・ 調査期間 平成25年3月18日（月）～3月22日（金）
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 400事業所
- ・ 回答数 258事業所（回答率64.5%）
※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	40	24	60.0
建設業（土木・建築）	44	29	65.9
建設業（職別・設備）	55	37	67.3
卸売業	48	29	60.4
小売業	88	62	70.5
飲食業	38	22	57.9
サービス業	87	55	63.2
合計	400	258	64.5

※ DI 値（業況判断指数）について

DI 値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(24年12月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価は大きく悪化したが、販売(受注)・客単価は少し改善した。
売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)も少し悪化した。

〈製造業〉

製造原価は悪化したが、販売(受注)単価は大きく改善した。
売上高、採算(営業利益)ともに大きく悪化した。

〈建設業(土木・建築)〉

仕入単価は大きく悪化したが、受注単価は大きく改善した。
売上高は大きく改善し、採算(営業利益)も改善した。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価は少し悪化したが、受注単価は改善した。
売上高は大きく改善し、採算(営業利益)も改善した。

〈卸売業〉

仕入単価は少し悪化したが、売上単価は改善した。
売上高、採算(営業利益)ともに大きく悪化した。

〈小売業〉

仕入単価、客単価ともに大きく悪化した。
売上高、採算(営業利益)もともに大きく悪化した。

〈飲食業〉

仕入単価は大きく悪化したが、客単価は大きく改善した。
売上高、採算(営業利益)ともに大きく悪化した。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)は大きく悪化したが、客単価は少し改善した。
売上高は大きく悪化したが、採算(営業利益)は少し改善した。

業種別の業況一覧

上段=対前期比
下段=対前年同期比

業種	今回調査 (25年3月期)	前回調査 (24年12月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 15.2	▲ 18.6	3.4
	▲ 13.0	▲ 22.5	9.5
製造業	▲ 33.3	▲ 17.4	▲ 15.9
	▲ 30.4	▲ 22.7	▲ 7.7
建設業 (土木・建築)	3.4	▲ 3.3	6.7
	6.9	▲ 6.7	13.6
建設業 (職別・設備)	8.1	0.0	8.1
	5.6	2.9	2.7
卸売業	▲ 25.0	▲ 30.0	5.0
	▲ 24.1	▲ 40.0	15.9
小売業	▲ 33.9	▲ 27.6	▲ 6.3
	▲ 23.3	▲ 44.6	21.3
飲食業	▲ 22.7	▲ 25.0	2.3
	▲ 19.0	▲ 18.8	▲ 0.2
サービス業	▲ 3.6	▲ 21.3	17.7
	▲ 9.1	▲ 16.4	7.3

来期(25年4～6月期)の業況見通し

全業種における来期(25年4～6月期)の業況見通しのDI値は12.1となり、2期ぶりに改善。平成8年9月の調査開始以来最高水準を記録した。

サービス業は8.3でプラス幅は減少しているものの、5期連続プラス水準で推移している。製造業では52.4と40.6ポイントと大幅に改善し、全体の業況見通しと同じく調査開始以来最高水準を記録した。卸売業では26.9、小売業では▲4.1、飲食業では31.3とそれぞれ20ポイントを超えて改善した。

好転の要因としては、政府の経済対策による景気回復への期待感、消費税増税前の駆け込み需要、行楽シーズン等季節的要因や取引先および取扱商品の増加による売上増加、悪化の要因としては、円安等による仕入(材料等)単価の上昇、景気の先行き不透明感に対する不安などの意見が寄せられた。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	今回調査 (25年3月)	前回調査 (24年12月)	今回調査との比較
全業種	12.1	▲2.8	14.9
製造業	52.4	11.8	40.6
建設業 (土木・建築)	12.5	4.2	8.3
建設業 (職別・設備)	▲6.5	▲12.5	6.0
卸売業	26.9	0.0	26.9
小売業	▲4.1	▲28.6	24.5
飲食業	31.3	7.1	24.2
サービス業	8.3	15.4	▲7.1